
ショートショートでこんにちは

での

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

シヨートシヨートでこんにちは

【Nコード】

N8855E

【作者名】

での

【あらすじ】

色々な短編の集まりです、着の身着のまま気の向くまま更新していきます。

アリとギリギリス

今は昔

東の方向にある裕福な国にギリギリスが居ました

来る日も来る日も葉っぱの上で楽器を鳴らしていました
その音は聴いたものの心地を良くさせる程の音楽でした

葉っぱの下ではアリ達が冬に向けての蓄えをしていました

ある日の事

ギリギリスの鳴らす楽器の音を女王アリが聴き
アリたちに言いました

『これは素晴らしい音色だ
このまま、冬が越せずに死なせてしまうにはしのびない
是非ともこのギリギリスを冬の間音楽家として迎えよう』

ギリギリスは音楽家として女王アリに向いいれられて
冬を越すことができました

今は昔

西の方向にある貧しい国にギリギリスが居ました

来る日も来る日も葉っぱの上で楽器を鳴らしていました
その音は聴いたものを幸せにさせる程の音楽でした

ある日の事

ギリギリスの鳴らす楽器の音を女王アリが聴き
アリたちに言いました

『冬の蓄えもせずに

楽器を鳴らしているとは

確かに良い音色だが

冬を越すことはできないだろう

お前達はせつせと冬を越す準備をするように』

ギリギリスは冬を越すことができずに死んでしまいました

今は昔

南の方向にあるイライラの募る国にギリギリスが居ました

来る日も来る日も葉っぱの上で楽器を鳴らしていました

その音は聴いたものは極楽浄土に上る思いをさせる程の音楽でした

ある日の事

ギリギリスの鳴らす楽器の音を女王アリが聴き

アリたちに言いました

『耳障りな音楽だ

兵隊をもつて之を殺して来い』

ギリギリスは抵抗しましたがアリの兵隊に殺されて死んでしまいました

アリたちもギリギリスの抵抗で被害をうけ
冬を越すことのできるほどの蓄えを得れず
皆死んでしまいました

桃太郎

「本日を持ってこの国の全都市を無防備平和宣言都市とします！
」

テレビでこの国の馬鹿総理がそう言った。

『無防備平和宣言都市』、戦争が起きた時にこの都市は武装をしていないので無条件で降伏しますよ、と言って武力的な衝突を避け、被害を最小限に抑える事を目的としたものらしい。

『国を他国に受け渡すつもりかこの売国奴め！！』と言う反対勢力の言葉を無視して国会で強引に可決に持っていた。

この宣言は戦争中で無いと宣言できないらしいから、軍隊を持たないことで他国に攻められたときにいつでも宣言できるようにするとの事。

軍隊を持つことを嫌っている自称人権団体達が歓喜の声を上げて万歳三唱をしている姿がテレビに映しだされている、カメラのその向こうヘルメットを被った怪しげな団体が余り目立たずに映っていた、僕の目はその怪しげな団体に釘付けになっていた、その団体は急に声を荒げ馬鹿総理の方へ走って行った、テレビの映像がズームアウト

トしていつている。カメラマンが現場から後ずさりながら撮影しているのだろ、馬鹿総理を警護していた警官隊と団体が衝突した直後にカメラの映像が途切れ、数十秒の砂嵐の後、上空からの映像に移り変わった、テレビのナレーターの話では極右の人たちによる暴動らしい、流石に見えていて気分の良い物では無かったのでテレビの電源を消して横になった。

馬鹿総理が無防備平和宣言都市を宣言してから一週間が経った頃、早速宣戦布告もなしに海を隔てた場所にある隣国が攻めてきた、それも隣国の周りにある国と同盟を組んで。

この国が攻められたときには遠くの大国が助けに来てくれるはずだった、その為にその国の基地も在ったはずなのだが、馬鹿首相が無防備平和宣言都市を宣言するために大国の基地を強制的に退去させたのだそう、その国の大統領は呆れていしまつて、もう攻められなくても助けに行くものかと言っていたらしい。

特に資源のあるわけでもないこの国が攻め込まれても他の国の人たちは助け舟を出してくれないわけで、そもそも、特に資源の無いこの国が攻め込まれること自体が意味不明なわけで。

テレビをつけてもずっと砂嵐のまま、連合軍が何時この町に攻めてくるかもわからない、家のドアが蹴破って銃を持った物騒な人たちがツカヅカと家に入り込んできた。

唐突の出来事に体が一瞬硬直して、その場から動けなかった、いかつい男二人に捕まれて、もう一人の男が僕の額に銃口を向けた、ジンと額が熱くなった、何がなんだかわからない、抵抗しようにも動く事ができない、体の中心から恐怖がこみ上げてきて、止めてくれと泣き叫ぶ事しかできなかった。

「数十年前にわが国を占領し、大量虐殺をした島国の鬼の子孫共め遂に成敗する日が来た、鬼どもは一匹も残らずに殺しつくしてくれよう。」

銃口を向けてきた男の顔を見た、涙で少しかすれていようがその男が憤っているのがよくわかる、それは命令で町を占領しなければいけないことではなく、僕自身に向けられた、正確にはこの国に住む全ての人に向けられた怒りだろう。

『パンツ』

軽い音を聞いた、途端に額の熱の温度が急に上がり、上がったかと思つと急激に減つていった、もう腕や足の感覚など無かつた、視界

が徐々に真つ暗になってゆき、兵士たちの高笑いをする声も少しずつ遠くに聞こえるようになっていった、妹が兵士たちに連れて行かれる姿が目に入り、また、家の物を持っていく兵士の姿も見えた、それらが濃い暗闇も中に映像として流れているだけ、もはや感情の変化さえ無くなってしまった。

まあいいか後二・三秒もすれば僕の存在自体亡くなってしまうのだから。

人間生産工場

町外れにある工場

其処では私たちに形の似たモノを生産している

それらは決められた時間に決められた役割を演じる為だけに存在している

あるモノは農業を、あるモノは工業を、あるモノはサービス業をする
一つ一つのモノ事態に名前があるらしいのだが、私達は総称して『
シャカイジン』と言っている。

時折、欠陥した『シャカイジン』が誤って出回り、「私達は何の為に存在しているのか！！」とか高らかに叫びながらデモを行ったりしている

ただ、欠陥品は見つかり次第処分されているので日常生活において
そういう『シャカイジン』を見ることは滅多にない

『ナゼソンナコトヲシッテイル』

遠くから消え入りそうな声がそう言っていた

そうだ何でこんな事を知っているんだ？

見たことも聞いたことも一度も無いはずなのに

いや・・・本当に無いのか？

何所かで見たことが？本当に？

思考がグルグルと渦を巻いて回っていく

記憶にある記憶と、記憶に無い記憶が混ざり合って何とも言えない
色合いをかもし出している

『ワタシハホントウニワタシナノカ？』

先ほどの声が次はハッキリと聞こえた

私は私に決っている、ちゃんと今までの記憶だつてある
生まれてから今までの思い出を振り返り驚愕した

正確では無く継接ぎの記憶

今生産している『シヤカイジン』にインプットされているテンプレ
ートのような思い出

不安が頭を過ぎる、ワタシは本当に私で在るのか
記憶は創られたものでは無いのか

『シカシワタシガナゼソンナコトヲカンガエテイル?』

先ほどとは別の声が大声で叫んだ

ズキリと頭痛がした、余りの痛さに私は手を止めて、その場にしゃ
がみ込んだ

周りの人たちが心配そうに声を掛けてきてくれたけれど、初めは意
味がわからなかった

何故しゃがみ込んだのかさえ

私は大丈夫だとだけいい、自分の作業へ戻っていった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8855e/>

ショートショートでこんにちは

2010年10月8日14時48分発行